

北アルプス立山連峰

毛勝山東又谷

阿部木谷～毛勝山～東又谷

平成7年5月4日

メンバー：酒井 正裕

天候：曇り

今年のゴールデンウィーク前半は、なかなかはっきりしない天候が続いたため、なんとしても行きたいと考えていた鹿島槍ヶ岳頂上からの滑降を諦めざるを得なかった。

そこで仕方なく富山の実家から日帰りて狙える毛勝山・東又谷を滑ることにした。この谷は、昨年滑る予定にしていたが、果たせなかったルートだった。

また、この山行で毛勝山のメインルート（阿部木谷、猫又谷及びこの谷）を滑ることになる。このため、本山行は鹿島槍ヶ岳の代わりとはいえ、以前から気に掛っていたものの一つであった。

早朝富山市内の実家から、軽四で片貝に向かう。思ったほどすっきり晴れていないので、視界が気に掛かった。

南又谷の分岐を過ぎ、片貝山荘に向かう一本道に入る。前方に同じく山荘に向かう車が何台も見え、この山域の最も賑わう時期であることを今更ながら実感する。

山荘すぐ手前で車を止め歩きはじめる。毛勝山域はこれで通算8回目となり様子は大体わかるが、それだけにこれから登る阿部木谷は体力的にきつい

のがわかっているため、少々不安である。今シーズンはただでさえ体力が落ちていることと、残業の連続による慢性的な睡眠不足で疲労がたまっていることから、今年の山行は例外なくバテている。体力が本当にもつのか心配である。

おまけに、登りはじめの林道の真中で、カモシカらしい死骸が雑木にまるごとひっかかっているのを見て、少々気持が悪くなった。

とにかく、バテないように極力ゆっくり休まずに心をかけて歩く。

やがて、板菱を迎えると阿部木谷は狭くなり、兩岸からのデブリで谷は完全に雪で埋まる。歩きなれたルートであるだけに、改めて今年の雪の多さに驚かされる。

大明神沢出合いでは、先行パーティが休んでいるのを横目に、毛勝谷に入る。ここからは、変化に乏しい雪渓をただ黙々と登るだけである。予想どおり、頂上直下でバテてしまった。

頂上には、前回この谷を登ったときより1時間も余計に掛かってしまった。

頂上からは、白馬岳や剣岳をはじめとして見慣れた山々が見渡せたが、曇っているため今一つ冴えない。

山頂の三角点横でスキーを履きこれから滑る東又谷の様子をうかがおうとするが、高度感のある急な大斜面であるため、まったく下が見えない。

出だしは、地図で地形を十分確認しながら慎重に滑らざるを得なかった。きっと、このルートを初めて滑る人であれば誰でもそうなると思う。

それでも、頂上から標高2050m付近までは高度感のあるスケールの大きい滑りが楽しめた。雪がクラストしている時の転倒は許されないが、これほど素晴らしい滑降は滅多に経験したことはない。ブッシュのていしている小さな支

ルート図 毛勝山東又谷



尾根を目印にその左（大清水右俣）を目指す。

この斜面が終われば、谷らしくなり斜面はやや狭くなるが、デブリの少ない斜面は大変快適であり、大清水二俣までの高度差 650mはこのルートのコア部だった。

大清水二俣に着き、今までの素晴らしい滑降を振り返る。前半のコア部を抜け、一時的ではあるが、やっと一息ついた。上部を見ると、実際には三俣状になっており中央から入る谷は浅い上に直ぐ雪が切れて岩が出ているのがわかる。毛勝山の頂上から滑った場合、頂上直下の斜面中央をそのまま真っ直ぐ滑り降りてはいけないことがわかった。

ここからの東又谷は広く開けた緩斜面が続くので、のんびりと滑ることができた。かれこれ17,8年ほどもたったのだろうか、当時この谷で道に迷った揚げ句に増水にあい、命からがら下山した苦い思い出が甦るが、今日はそんな思い出も懐かしくなるほど余裕がある。

やがて右から作之丞谷を入れ、しばらく滑ると両岸とも岩壁が切り立ちゴルジュの様相を呈してくる。谷も狭くなりデブリが出ている。このゴルジュ先には10m程の高さの三階棚滝があるが、この滝が露出しているようだと、この先の通過は厳しいことが予想される。このことが、今山行唯一の心配の種だった。

雪の多い年であったためもあってか、本山行では完全に埋まっていたが、この下部の標高1100m付近（モモアセ谷出合手前）で雪渓が切れていた。ここは、左岸の残雪をたどって簡単に小さく高巻けたが、例年のこの時期であればこの箇所に残雪はないので本来であれば手間取ると思われることから、三階棚滝からモモアセ谷出合手前までは

本ルートのポイントといえると思う。

高巻いた先からはまた広々とした谷となり快適に滑り降りる。やがて、右から赤倉谷を入れ、しばらく滑ると堰堤にでた。

ここでスキーを脱ぎ、右岸沿いに連続する堰堤を3つばかり越せば取入口に着く。この先も谷は至るところ両岸から押し出されたデブリで埋まっているが、アップダウンも多いことからスキーを担いで林道と思われるところをほぼ忠実にたどり片貝山荘へ向かう。

予想だにできなかった変化のある素晴らしい滑降ができたルートに、本当に満ち足りた気持ちで家路を急いだ。

【コースタイム】

富山(3:30)=片貝山荘(5:10)-コル(12:05)-毛勝山(12:25/13:00)-三階棚滝(13:35)-取入口(14:20)-片貝山荘(15:10)

(酒井 正裕 記)